

日野高等学校の存続を求めて 滋賀県知事らへ要望書を提出

▶要望書を手渡す藤澤町長



11月4日(木)、藤澤直広町長、奥村薫教育長、杉浦和人議長、山田尚夫県議会議員、池内俊宏日野高等学校PTA会長、住井恭之同窓会長の6名が、滋賀県庁を訪問し、嘉田由紀子知事と末松史彦教育長に「県立高等学校の存続についての要望書」を提出しました。

現在、日野高等学校は、生徒の6割以上が自転車で通学するなど、地域の高等教育機関としての地位を確かなものとされています。

地域における歴史、伝統、文化とその果たされてきた役割を尊重するとともに、高等教育機関への生徒の身近な地域での就学保障をするため、日野高等学校の存続を強く要望しました。

百済の歴史文化と友好の絆を再発見

世界大百済典訪問使節団

10月11日から10月13日までの3日間、日野町と姉妹都市提携を結んでいる韓国恩山面へ、藤澤町長を団長に4名の使節団が訪問しました。

今回の訪問は、9月18日から10月17日まで30日間、恩山面が属する扶餘郡での「2010世界大百済典」の開催に際し、恩山面長からご招待を受けたものです。

①世界大百済典を見学

百済は、紀元前18年から西暦660年まで700年近く古代国家を形成し、東アジアにおける文明の交流拠点として輝いていた文化王国でした。「百済」の王都であった「扶餘郡」と「公州市」において、1400年前の百済の復活を、国家の発展と世界への平和へとつなげるために「世界大百済典」を開催されました。韓国を代表する歴史文化の祭典として大きく飛躍され、百済と交流があった世界各国からも注目されており、大勢の人でにぎわっていました。

1日目の夜は、百済滅亡から文化の力で復活を遂げた歴史的な工ピソードを題材にした水上公演を鑑賞。2日目は、17年の歳月と多額の経費をかけ、百済宮廷や五重塔の建造物などで当時の生活を再現した歴史文化団地と百済時代の遺物の特別展やデジタル映像で百済文化を復元した歴史文化館などを見学しました。1400年前にタイムスリップし、

独特の建築技法や生活風景、百済文化の偉大さを改めて実感するとともに、歴史の中に埋もれている百済文化の復興に熱い思いを込められた多くの人々の努力に感動しました。



▲歴史文化団地の生活文化村

②恩山面事務所・恩山中学校・恩山別神堂を訪問

恩山面事務所で、鄭東賢面長や地域の皆さんの歓迎を受けました。

今年8月に日野中学生使節団を温かく迎えていただいた恩山小・中学校では、学校での子どもたちの生活を見学させていただきました。その後、姉妹都市提携のきっかけとなった鬼室福信將軍がまつられている恩山別神堂を訪問しました。

お世話になった皆さんが一同に会された晩餐会では、日野町と恩山面との20年に及ぶ交流の歴史の中で築かれた友好の絆を確認し、今後の交流促進に向けてお互いの理解を深め合うことができました。



▲恩山面事務所表敬訪問